

## 吉名町の歴史を調べて伝えよう ～歴史秘話探検プロジェクト～

## 1 単元のデザイン

## 単元の見直し

一度途絶えた地域の塩の歴史とその復活と継承に取り組む人々について調べたり地域の塩を広めたりする活動を通して、地域の塩の復活と継承に取り組む人々の願いや努力などを理解し、それを基に課題を設定してその解決に向けて考えるとともに、自他のよさを生かしながら協働して活動を進めようとするようにする。

## 単元について

本単元で扱う材は「たけはらの塩」である。竹原市は塩で栄えた町であり、全国に知られた名産地だった。1960年の塩田廃止に伴い、本市の塩づくりは一度途絶えてしまうが、近年、有志によって「たけはらの塩」として復活した。その塩づくりを行っている場所が吉名町にある。地域の塩を復活させた方の思いや願いを知り、それに応えるために自分たちができていることを考えることで、課題を発見する力・企画する力を育成することができる。

本単元の主な活動は、自分たちの考えた取組で「たけはらの塩」を広めることである。企画段階と実行段階に分けてその特徴を述べる。企画段階では、様々な取組を出し合った後、取組の長所や短所、効果や実現の可能性などを観点に分析することになる。これを通して、整理・分析する力を育成することができる。また、取組の決定に向けて話し合うことを通して、多様な意見を出し合い、合意形成を図ろうとする協働する力を育成することができる。実行段階では、多様な人々との関わりが必要になる。そのため、自他のよさを生かしながら協働して活動を進めようとする協働する力を育成することができる。加えて、「たけはらの塩」を広めるためにはその特徴を見出す必要がある。「たけはらの塩」とそれ以外の塩とを比較して「たけはらの塩」の独自の特徴を見出していく過程で、味や見た目などの観点に沿って整理・分析する力を育成することができる。さらに、目的の達成のためには制作物や取組をよりよいものにする必要がある。そのため、自然と自己評価や相互評価、それを受けた改善が行われる。その過程で、個人の好みだけでなく顧客の傾向を基にした適切に評価する力を育成することができる。

## 共創の視点

本単元では地域の塩を軸にして、児童の思いや願いに沿って単元を進める。児童の発想により常に単元計画の見直しが行われる。これによって、児童と教師が共に単元を創るという子供との共創を実現する。また、本単元では、復活した地域の塩の継承という地域課題の解決に向けて児童と地域の方が協働して取り組むことになる。これによって、地域との共創を実現する。

## 児童の実態

本学級の児童の地域の塩に関する知識は見聞きしたことがある程度であり、竹原市が昔は塩の名産地であり吉名町にも塩田があったという歴史やその塩を復活させ当時の製法で製造している場所が吉名町にあることは知らない。

技能（ICT活用力）については、これまでの学習で文書やプレゼンテーション資料の作成に数多く取り組んでおり、レイアウトを工夫したり写真や動画を入れたりしてそれらを作成することができる。

課題を発見する力・企画する力については、まず自分たちの思いや願いを基に課題を設定することができるのが半数の児童である。しかし、その半数の児童が設定した課題は自己満足なものになりがちであり、地域の方の思いや願いを基に課題を設定することはできていない。課題が自己満足になりがちなのは児童も問題だと捉えている。

整理・分析する力については、教師の構造的な板書などの支援を受けながら情報を比較・分類したり、関係付けたりして特徴を見付けることはできるが、児童だけでは難しい。様々な情報を観点に沿って整理することができないこと、情報と情報との関連性を見出すことができないことが要因だと考えられる。

評価する力については、日常の授業の様子から、他者の発表や制作物などに対してよい点や改善点などを見付けて伝えたり、他者からの評価を基に発表や制作物などを改善したりすることはできる。しかし、その判断基準が個人の好みに留まることが多く、適切な評価となっていない傾向がある。

協働する力については、普段の授業や学校生活において数名の児童の言動に頼っている傾向が見られる。また、半数以上の児童が自分の考えとは異なる意見に対して理解を示そうとしない傾向が見られる。そのため、課題の解決に向けて多様な意見を出したり、自他のよさを生かしながら協働して活動を進めようとしたりすることは十分にできていない。

## 指導の工夫（単元づくり5つのポイントの具現化）

- 単元序盤は地域の塩に関わって児童が「やってみたい」と思ったことをすぐ実践することで、自らの思いや願いによって単元を進めていくという児童の意識を高め、自分たちの思いや願いを基に課題を設定することができるようにする。単元中盤からは、課題が自己満足になっているという児童の問題意識をきっかけに他者の視点を導入して地域の塩に関わる人々の思いや願いに応える活動を考えるようにすることで、地域の方の思いや願いを基に課題を設定することができるようにする。（思いや願いに基づく挑戦）
- 環境構成の工夫として各地で作られている塩を教室に置いておく。そして、「たけはらの塩」とそれ以外の塩とを比較する活動を設定することで、観点に沿って比較・分類したり、整理したりすることができるようにする。（本物からの学び）
- アンケートやインタビューなどを参考に自分たちの取組や制作物を評価、改善を行う機会を設定することで、判断基準を個人の好みだけでなく顧客の傾向に広げて適切に評価したり、その評価を基に改善することができるようにする。（高い壁との出会い、再挑戦の場の設定）

## 2 単元の評価規準

(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 地域の塩の特徴や塩づくりの歴史、その塩の復活と継承に取り組む人々の願いや努力などを理解している。</p> <p>イ 文書作成アプリやプレゼンテーションアプリを用いて、レイアウトを選択し、編集した写真や動画、ローマ字入力で書いた言葉を入れて、統一感のある文書やプレゼンテーション資料を作成できるようになる。</p> <p>ウ 地域の塩の特徴や塩づくりの歴史、その塩の復活と継承に取り組む人々の願いや努力などに関する理解の深まりが探究的な学習をしたことの成果だと気付いている。</p>	<p>エ 体験活動やインタビュー、資料の分析で得た情報や自分たちの興味・関心、地域の方の思いや願いを基に課題を設定し、課題解決に向けたアイデアを出している。</p> <p>オ 課題解決に向けて、教師や地域の方の助言などを参考に、必要な情報や準備物、解決方法や手順などの計画を立て、見通しをもって計画的に活動を進めている。</p> <p>カ 事前に考えた計画（質問項目など）に沿うだけでなく、その場での気付きを基に別の観点で観察したり、相手の反応を見ながら臨機応変に追加の質問をしたりして、より詳しい情報を収集している。</p> <p>キ 様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたりして、特徴などを見付けている。</p> <p>ク 目的や意図に応じて、話の内容が明確になるように筋道の通った構成を考え、効果的な資料を提示するなどの工夫をしているとともに、原稿を見ずに、相手の反応を踏まえてその場で表現を変えたり言葉を補ったりするなどして自分の考えを伝えている。</p> <p>ケ 既存のアイデアにアレンジを加えたり、肉付けしたり、組み合わせたりしながら新たなアイデアを考え、形にしている。</p> <p>コ 他者の発表や制作物に対して、よい点や改善点などを見付けて伝えている。他者からの評価を基に、制作物や取組を見直し、改善している。</p>	<p>サ 課題の解決に向けて、実社会の場でも進んで挑戦し、失敗や困難に出会っても改善を図って再挑戦し、最後までやり切ろうとしている。</p> <p>シ 課題の解決に向けて、多様な意見を出し合いながら議論を行い、合意形成を図ろうとしている。また、自他のよさを生かしながら協働して活動を進めようとしている。</p> <p>ス 活動を振り返る中で、自分や友達、伝統的な製法による塩づくりのよさなどに気付くとともに、自分の個性（長所や短所など）を認識し、自分の将来を考えて、今後の自分の目標を具体的に見出そうとしている。</p>

### 3 指導と評価の計画（全 70 時間）

時	学習活動	評価規準 (評価方法)	他教科との関連
1 ～ 5	<p>○地域の歴史について調べ、それを基に本単元で扱う材を話し合って決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度までの「YOSHINA 未来学」で取り組んだことや身に付いた力を話し合う。</li> <li>・光海神社で吉名町の歴史に関する話を聞いたり昔の吉名町に関する資料を読んだりする。</li> <li>・調べたことを交流し、本単元で扱いたい材を話し合って決める。 →今年度の材が「たけはらの塩」に決まる。</li> <li>・「たけはらの塩」について知っていることや塩を材にしてやってみたいことを話し合い、自分たちの思いを基に課題を設定する。</li> </ul>	(2)エ (行動観察、 記述分析)	社会科「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」「江戸の社会と文化・学問」「新しい日本のあゆみ」
6 ～ 16	<p>○「たけはらの塩」と他の塩を食べ比べたり、海水から自分たちで塩を作ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たけはらの塩」と他の塩の違いはあるのか」という問いから「たけはらの塩」と他の塩を食べ比べ、特徴を見出す。</li> <li>・自分たちでも塩が作れるかという問いから、塩の作り方を調べ、校区の海で海水を採集し、自分たちで塩を作る。</li> </ul>	(2)カ (2)キ (3)サ (行動観察)	理科「ものものけ方」
17 ～ 19	<p>○ここまでの学習を振り返り、新たに課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かったことや気付いたことを話し合う。</li> <li>・課題が自己満足になっていなかったかを振り返る。</li> <li>・自分たちだけでなく地域の人々の視点も加えて新たに「たけはらの塩」を広める」という課題を設定する。</li> </ul>	(1)ア (2)エ (行動観察、 記述分析)	
20 ～ 24	<p>○「たけはらの塩」を広めるための取組を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たけはらの塩」を広めるための取組を出し合い、どの取組にすればよいかを話し合う。 →取組が「たけはらの塩」を使った商品開発に決まる。</li> <li>・決まった取組を実現するために必要な人・ものについて話し合う。</li> </ul>	(2)キ (2)ケ (3)シ (行動観察)	国語科「話し合って考えを深めよう」
25 ～ 30	<p>○学校運営協議会に自分たちが考えた取組への協力を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習と自分たちの考えた取組をまとめ、プレゼンテーション資料を作成する。</li> <li>・自分たちが考えた取組を提案し、意見や助言をいただく。</li> </ul>	(1)イ (2)ク (行動観察、 作品分析)	国語科「発信しよう、私たちのSDGs」
31 ・ 32	<p>○学校運営協議会での助言などを参考にして、今後の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の実現に向けて必要なことを出し合い、目安となる時期を考えながら計画を立てる。</li> </ul>	(2)オ (行動観察、 記述分析)	
33 ～ 36	<p>○塩づくりを行っている場所の現地調査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩づくりの製法を見たり、塩の復活と継承に取り組む人々にインタビューをしたりする。</li> </ul>	(1)ア (2)カ (行動観察)	

<p>37 ～ 50  本 時 45 時 間 目</p>	<p>○計画に沿って、「たけはらの塩」を広めるための取組の準備を進める。</p> <p><b>【商品開発】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「たけはらの塩」を使った商品のアイデアを出し合う。</li> <li>・アイデアの中から「たけはらの塩」の特徴を生かすとともに多くの人に知ってもらえるものは何かを話し合う。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> <p><b>【交渉】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力を依頼する事業所などを探す。</li> <li>・探し出した事業所などに取組の目的と自分たちが考えた商品を提案し、協力を依頼する。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>(2)キ (2)ク (2)ケ (2)コ (3)サ (3)シ (行動観察、 記述分析)</p>	
<p>51 ～ 56</p>	<p>○試作品を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試作品を自分たちで確認し、よい点や改善点について話し合う。</li> <li>・保護者や地域の人などを対象に、試作品についてのアンケートやインタビューを行う。</li> <li>・自分たちが見付けたよい点や改善点、保護者や地域の人などのアンケートやインタビューの結果を基に、商品の改善案を考える。</li> </ul>	<p>(2)コ (3)シ (行動観察、 記述分析)</p>	
<p>57 ～ 64</p>	<p>○商品の広報の仕方について考え、準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の広報をどのように行うかを話し合う。</li> <li>・チラシやポスターなど、自分たちが考えた広報に必要なものを作成する。</li> </ul>	<p>(1)イ (2)ケ (行動観察)</p>	
<p>65 ～ 68</p>	<p>○自分たちの取組を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の売れ行き、これまで関わった人々の声などを基に、自分たちの取組を評価する。</li> <li>・改善案を出し、すぐにできることは実行する。</li> </ul>	<p>(2)コ (記述分析)</p>	<p>算数「データの整理と活用」</p>
<p>69 ・ 70</p>	<p>○本単元の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の活動を通して思ったことや感じたこと、本単元を通して身に付いたと思う力について交流し、振り返りシートに書く。</li> </ul>	<p>(1)ウ (3)ス (記述分析)</p>	<p>家庭科「共に生きる地域での生活」「持続可能な社会のために」</p>

#### 4 本時について

##### (1) 本時の目標

「たけはらの塩」を使った商品開発に関するアンケート調査の結果を分析することを通して、アンケート調査で得た様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたりして、回答者全体の傾向を見付け、商品開発の方向性を導き出す根拠とすることができる。

##### (2) 本時の評価規準及びルーブリック (2)キ 整理・分析する力

S (期待以上)	A (十分満足できる)	B (概ね満足できる)
インタビューやアンケート調査などで得た様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたり、多面的・多角的に分析したりして、回答者の傾向や年齢層による違い、 <u>個々の商品案のメリットやデメリットなど</u> を見付け、商品開発の方向性を導き出す根拠としている。	アンケート調査で得た様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたり、 <u>多面的・多角的に分析したり</u> して、回答者全体の傾向や <u>年齢層による違い</u> などを見付け、商品開発の方向性を導き出す根拠としている。	アンケート調査で得た様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたりして、回答者全体の傾向を見付け、商品開発の方向性を導き出す根拠としている。

##### (3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した児童生徒への指導の手だて (◆)	評価規準 (評価方法)
1 前時までに「たけはらの塩」を使った商品案を考えたこと、商品開発に関するアンケートを作成し、そのアンケートに対して様々な人に回答してもらったことを想起して、本時の課題を設定する。	◇アンケート結果を分析することへの意欲を喚起するために、アンケートの回答数や回答の一部を電子黒板で提示する。 ◇児童自身が自ら学びを創る意識をもつことができるように、本時の課題をどうするかを問い、児童の言葉を生かして書く。	
「たけはらの塩」を広める商品案を決めるため、アンケート結果を分析する。		
2 アンケート調査の結果を整理・分析し、それを基にどの商品案が「たけはらの塩」を広めるのによいかを話し合う。  【アンケート調査】 ・全体的にはおにぎりが多い。 ・塩唐揚げも多い。 ・私たちは、塩焼きそばを誰も選ばなかったけど、かなり票が入っている。 ・ポテトやポテトチップスは子供に人気がある。おやつだからだろうか。 ・40代以上は塩唐揚げが少ない。胃もたれするからかもしれない。 など  【商品案自体の比較】 ・〇〇は作るのが難しそうだから、実現できるか心配。(実現可能性) ・持ち運びができたほうが観光客にはいいかも。塩ラーメンは持ち運べない。	◇効率的に全体の傾向を分析することができるように、アンケートツールの機能を用いて調査の結果を棒グラフに表して提示する。 ◆アンケート結果を表した棒グラフから全体の傾向が捉えられない児童には、視覚的に捉えやすい観点(多いもの、少ないもの)についての補助発問を行う。 ◇年齢層による傾向の違いに気付くことができるように、自分たちが選ばなかった商品案に多くの票が入っていることを取り上げ、その理由を話し合う活動を設定したり、必要に応じて表計算アプリを用いて年齢別の結果をグラフで出したりする。 ◇今回行ったアンケート調査の限界(回答を選択した理由の詳細が分からない、実物を見たり試食したりしていないので「たけはらの塩」の味を感じることは判断できない、など)に気付くことができるよう、自分たちが商品案を考える際に出した商品開発の視点を再確認したり、【商品案自	アンケート調査で得た様々な情報を、比較・分類したり、関係付けたりして、回答者全体の傾向を見付け、商品開発の方向性を導き出す根拠としている。 (行動観察、振り返りの記述分析)

